

村の宝「子ども達」をみんなで育てよう！

小中一貫教育推進だより

No. 2

平成22年2月12日

普代村教育委員会

小中一貫教育研修会より

学校教育推進協議会総会では、これからの普代村の小中一貫教育の方向性について説明させていただきましたが、いくらかでもご理解いただけたでしょうか。あの場でもお話ししましたが、みなさんのアイディアでより効果的な取組を実践できるようにしていきたいと思っておりますので、ご意見やご質問をアンケートや会議にお寄せください。

さて、総会の前に行われた小中一貫教育研修会は、限られた先生方で実施されました。各学校でも内容を伝えられているかもしれませんが、共通確認事項等をお知らせします。

1 授業から（授業：普代小学校6年生の学級活動「もうすぐ中学生」。授業者馬場教諭）

授業のねらいは、

小6の3学期の子ども達の心や体の状態をありのままに見てもらうこと

授業で使ったアンケート（中学校への期待、不安）を小中一貫教育の初期のデータとすること

小中一貫教育をテーマとした授業をすること。

であった。

このねらいで授業を組まれたことで、

小中一貫教育の初期のデータを村全体としてとっておくことの必要性の確認ができたこと（実際、堀内小学校、黒崎小学校でも実施してほしい。）

授業の最後で子ども達が「中学校生活にどのように臨んでいくか」についてはなしたことを中学校の4月に生かしたり、入学1年後の心境を綴った中学生からの手紙を計画的に作成させたりというつながりをもたせることの可能性が生まれたこと（カリキュラムづくりの一つの方向性）

という成果が得られた。

2 共通取組事項の成果や課題から

各校の実践のよいところをどの学校でも生かしたい。

挨拶運動等を継続し発展させること

言葉遣いの基準を教師間で話し合うこと（敬語を使う場や範囲の共通理解）

自分を表現する場を多く設定すること

中学生が手本となり、小学生が目指していく形をつくっていききたい。

以上のことを共通理解し、意識して取り組んでいきましょう。